

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部、教育学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 29 年度には、教員組織の一元化を図り、教員研修機能を主とする教育研究支援機構の教員をこれらの講座に再配置し、教員養成と教員研修の融合を図り、全学教員が一体的に得られた研究成果を教員養成、教員研修に還元する体制となった
- 機能強化経費を有効に活用し、機能強化戦略2「現代の教育的課題に対応するプロジェクト」として、3つのプロジェクトを組織し、継続・発展させながら、地域の教育改善に寄与している。このうち取組1及び取組2は、平成30年度概算要求において、長年の優れた実績により奈良教育大学の基幹的事業として位置付いていることが評価され、「基幹経費化」されている。
- 教員個人の活動を大学全体に展開し、平成29年1月には、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する「カンボジア国教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト」に参画し、「カンボジアにおける小中学校教員養成のための各分野の指導法の研究等」を研究内容とする合計約65,000千円を受託研究費として受け入れることができた。
- 文部科学省ユネスコ活動費補助金「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業補助金」を活用し、ESDの普及・啓発を目的に、奈良県奈良市・奈良県橿原市・和歌山県橋本市・滋賀県彦根市の各教育委員会と連携し、近畿ESDコンソーシアム（事務局は奈良教育大学）を組織している。現在（令和2年3月31日）の加入団体は90機関にもなり、近畿におけるESD-SDGsの拠点として精力的に活動している。また、「ESDティーチャープログラム」においては、地域の現職教員も対象として認証を行った。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。